

ウォーキング普及を

倉吉の
佐伯さん
の本州縦断目指し出発

鳥取県ウォーキング協会役員の佐伯忠道さん(68)が13日、倉吉市新陽町の自宅を出発し、下関から青森までの日本海側を歩く本州縦断に挑戦する。半年後にはゴールする予定で、佐伯さんは「元氣よく歩く姿を見せることで、ウォーキングの普及につなげたい」と張り切っている。

佐伯さんは、肩こりなどに悩んでいた妻の

洋子さん(67)とともに、1995年からウォーキングを始め、翌年から歩いた距離のデータをとり始めた。「自分なりに目標を持つことが励みになる」という佐伯さんは、

ほぼ毎日こつこつと歩き続け、10年間で地球1周分の4万キロを達成。以降も年間4500キロほど歩き、同市で開催の日本未来ウォークの運営にも尽力し

下関をスタート後は、1週間から10日間歩いて1日休養し、およそ半年かけて青森にゴールする予定。縦断中、各地で行われる大きなウォーキング大会

があれば、休養日を参加に充てたいという。コース内では、未来ウォークのスタッフ用帽子をかぶり、未来ウォークのPRもする。佐伯さんは「80歳まで元気に歩きたい。姿勢よく元気で歩く姿を見てもらい、ウォーキングの普及につなげたい」と話している。

(八幡祥代)



歩いて本州縦断に挑戦する佐伯さん